



東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きとともに広がる＜新しい景色＞を
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

JP ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第138回東京オペラシティ定期シリーズ

5.12(水)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第952回サントリー定期シリーズ

5.13(木)19:00開演 サントリーホール 大ホール

第953回オーチャード定期演奏会

5.16(日)15:00開演 **Bunkamura** オーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

バンドネオン：小松 亮太、北村 聡*

コンサートマスター：依田 真宣

5/12

5/13

5/16

ピアソラ：

シンフォニア・ブエノスアイレス Op. 15* (日本初演) (約30分)

I. モデラートーアレグレット II. レント：コン・アニマ III. プレスト・マルカート

プロコフィエフ：

バレエ音楽『ロメオとジュリエット』組曲より (約50分)

モンタギュー家とキャピュレット家 (第2組曲 第1番)

少女ジュリエット (第2組曲 第2番)

民衆の踊り (第1組曲 第1番)

仮面 (第1組曲 第5番)

ロメオとジュリエット (第1組曲 第6番)

ティボルトの死 (第1組曲 第7番)

別れの前のロメオとジュリエット (第2組曲 第5番)

修道士ローレンス (第2組曲 第3番)

ジュリエットの墓の前のロメオ (第2組曲 第7番)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：**Bunkamura**(5/16)



※演奏中や曲間・楽章間での入退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場、再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

出演者プロフィール

指揮 **アンドレア・バッティストーニ**

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』、『リゴレット』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリンスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニの ぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。



©上野隆文

バンドネオン **小松亮太、北村 聡**

Ryota Komatsu / Satoshi Kitamura, bandoneón

小松亮太／1973年東京生まれ。日本はもとより、世界各地でタンゴ界における記念碑的な公演を実現している。15年にリリースした大貫妙子との共同

名義アルバム『Tint』は、第57回輝く！日本レコード大賞「優秀アルバム賞」を受賞。今年3月に400ページを超える自身の著書『タンゴの真実』（旬報社）を刊行した。

北村 聡／関西大学在学中にバンドネオンに出合い小松亮太に師事、アルゼンチンでフリオ・パネのレッスンを受ける。世界各国のフェスティバルに出演。NHK「八重の桜」「あさが来た」、映画「そのみにて光輝く」「イニシエーションラブ」をはじめ様々な録音に参加している。



©Yusuke Takamura

©植村元吉

楽曲紹介

ピアソラ

シンフォニア・ブエノスアイレス Op. 15

解説=斎藤充正

今年3月に生誕100周年を迎えたアストル・ピアソラ(1921-1992)はアルゼンチンのマル・デル・プラタ生まれ。4歳から16歳までの大半を過ごしたニューヨークで8歳の頃、父からバンドネオンを与えられ、クラシックや民謡を弾いてラジオにも出演。帰国後の1938年、ようやくタンゴに目覚め、翌年にはブエノスアイレスに出てタンゴの黄金時代を代表するアニバル・トロイロ楽団に参加。1941年からは、当時新進の作曲家だったアルベルト・ヒナステラにクラシックを学ぶ。1946年には自身のタンゴ楽団を結成するが、タンゴの枠内での表現に限界を感じ、1950年頃にはクラシックの作曲家を目指すようになる。

この作品は正確には『ブエノスアイレス(3つの交響的楽章)』と言い、タンゴから距離を置き始めた1951年に書かれた。同年、国営放送局がブルーノ・バンディーニ指揮、レオポルド・フェデリコとロベルト・ディ・フィリップのバンドネオン、国営放送局交響楽団によるこの作品の演奏をアセテート盤に収めた。その録音は極めて音の悪い状態ながら現存しており、その冒頭の部分はダニエル・ローゼンフェルド監督のドキュメンタリー映画『ピアソラ 永遠のリベルタンゴ』(2018年公開)でも聴くことができた。1952年にはイーゴリ・マルケヴィチの指揮により、ブエノスアイレス大学法学部講堂で初演。

ヒナステラはこの作品を作曲家のファン・ホセ・カストロに見せるようピアソラに勧め、これを気に入ってわずかな修正を施したカストロは、優勝賞金5,000ペソのファビアン・セヴィツキー賞に応募するよう強く勧めた。そして見事に第1位を獲得し、アルゼンチンを訪れたセヴィツキー自身の指揮、再び国営放送局

交響楽団の演奏により（第2バンドネオンはアベラルド・アルフォンシンに交代）、1953年8月16日に国際的に初演された。“神聖なる”クラシック作品にタンゴの象徴たるバンドネオンが使われたことで観客は支持派と反対派に別れ、殴り合いの喧嘩にまで発展、動揺するピアソラに対しセヴィツキーは「心配しなくていい。これは宣伝になるよ」と声を掛けたという。

この賞で奨学金を得たピアソラは1954～55年、パリでナディア・ブーランジェから学ぶ機会を得るのだが、この作品を含むクラシック系作品について彼女は「よく書けているが個性がない。タンゴこそあなたの音楽」と重要な示唆を与える。これを契機にピアソラは自身の新しいタンゴを推し進め、以降のクラシック作品にもピアソラ流タンゴのエッセンスを盛り込むようになった。その意味で純クラシック志向時代のこの作品は貴重だが、ジゼル・ベン＝ドール指揮、サンタバーバラ交響楽団による2004年の世界初録音ではバンドネオンはファンホ・モサリーニ一人だけだった。またピアソラ自身の編曲によるバンドネオン抜き交響曲ヴァージョンもあって、2006年にガブリエル・カスターニャ指揮、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団が初録音している。今回の日本初演ではオリジナル通りのバンドネオン2台が実現。しかも奏者はピアソラを熟知し日本を代表する小松亮太、北村聡の両名であり、それを初演奏への意欲に燃えるアンドレア・パッティストーニが指揮する、ということで実に期待が膨らむ顔合わせである。

【作曲年代】1951年 【初演】1952年 プエノスアイレス大学法学部講堂にてイーゴリ・マルケヴィチの指揮による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、大太鼓、トムトム、タヴォレット、サンドペーパー、トライアングル、サスペンデッド・シンバル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、シロフォン）、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部、バンドネオン2

さいとう・みつまさ／神奈川県出身。1985年、雑誌『ラティーナ』に執筆活動開始、以後CDの企画監修などにも携わる。第9回出光音楽賞（学術研究）受賞。著書に『アストル・ピアソラ 闘うタンゴ』（青土社）、編書に『200DISCS ピアソラ／タンゴの名盤を聴く』（共編、立風書房）、訳書に『ピアソラ 自身を語る』（河出書房新社）など。

プロコフィエフ バレエ音楽『ロメオとジュリエット』組曲より

解説＝柳富美子

美しく親しみやすい旋律・大胆な和声進行・多彩なライト・テーマを持つこの曲は、20世紀クラシックバレエの最高傑作である。しかしこうした名声を獲得するまでの道のりは、決して平坦ではなかった。特に初演に至るまでの過程は現時点でも不明な部分が多い。

プロコフィエフ(1891-1953)は17年に亘る海外生活に終止符を打ってソ連へ完全帰国した1935年(1936年という従来説は誤り)、既に6作ものバレエに取り組んでおり、ロシアバレエ団の主宰者ディアギレフとの長い交流も糧として、このジャンルの達人となっていた。そしてキーロフ(現マリイーンスキ)歌劇場の契約の下に発表した意欲作が『ロメオとジュリエット』である。演出家ラードロフに翻訳家・劇作家ピオートルスキという当時最も活躍していた強力な布陣を得て、同年夏に4幕9場・全52曲の音楽を書き上げた。当初は、シェークスピアが参考にした原案の一つに従って、ハッピーエンドの筋書きだったが、世情などを付度して完成後に悲劇へ変更した。

ところが諸般の事情から歌劇場側は契約を解除、その後に名乗り出たモスクワ・ボリショイ劇場も、1936年1月末に始まったショスタコーヴィチへのプラウダ批判キャンペーン後に断ってきた。結局、初演は1938年12月にチェコのブルノー国立歌劇場にて1幕の短縮形式で作曲者不在のまま行われ、ソ連国内では実現しなかった。その間にプロコフィエフは、それぞれ7曲から成る2つの管弦楽組曲(1936、37年)と10曲構成のピアノ組曲(37年)を完成させて作品の宣伝に努めた。一方、ブルノーでの初演前、国内初演を再検討していたキーロフ劇場の依頼により気鋭の振付師ラヴロフスキーが途中から企画に参加、これが功を奏した。音楽の大幅改編も経て、1939年末にプロローグ&エピローグ付き3幕13場のラヴロフスキー版が誕生した。ウラノワをジュリエットに迎えたこの初演は1940年1月11日キーロフ劇場で行われ、大成功を収めてソ連時代最高の栄誉であるスターリン賞を獲得した。このラヴロフスキー版『ロメジュリ』は世界中のバレエ団の注目を集め、以来、幾多の演出が生まれた。なおプロコフィエフの原曲とも言える1935年ハッピーエンド版は、2008年にニューヨークで初演された。

5/12

5/13

5/16

この作品には全部で3つの管弦楽組曲版があり、第3組曲は1946年作。しかし最も頻繁に演奏されるのは、本日のように第1、2組曲からの組合せ抜粋である。物語中盤で終わる第1組曲とハイライト的な第2組曲には、後年人気となったピースが分散所収されているので、現在ではごく自然にミックスした形が取られている。物語の流れを押さえつつ、緩急など音楽的要素にも配慮が必要なので、選曲と配列そのものが指揮者の腕の見せ所となる。本日は以下の9曲が演奏される。

冒頭の「**モンタギュー家とキャピュレット家**」(第2組曲 第1番)はバレエ原曲の「大公の宣言」と「騎士たちの踊り」が合体した曲で、後者は男女の寝間で繰り広げられる「中世の枕踊り」を模したもの。歩くだけで舞踏になるという名曲である。「**少女ジュリエット**」(第2組曲 第2番)はロメオに出会う前の無邪気なジュリエットを描いている。「**民衆の踊り**」(第1組曲 第1番)はバレエでは二人が恋に落ちた後のヴェローナの街の賑わいを表現している。「**仮面**」(第1組曲 第5番)にはキャピュレット家の舞踏会へ仮面をつけて侵入したロメオたちと滑稽な踊りのシーンが登場する。「**ロメオとジュリエット**」(第1組曲 第6番)で束の間の二人の愛が描かれるが、一転して「**ティボルトの死**」(第1組曲 第7番)は、決闘の末に親友を殺されたロメオがティボルトに復讐を果たした直後の劇的な場面となる。ヴェローナからロメオが追放される直前の場面「**別れの前のロメオとジュリエット**」(第2組曲 第5番)に続いて、「**修道士ローレンス**」(第2組曲 第3番)では二人の愛の成就を願う穏和な情景が、そして「**ジュリエットの墓の前のロメオ**」(第2組曲 第7番)では沈痛な死の主題に続いて既出のモチーフが幾つか流れ、悲劇の結末が暗示されて終わる。

【作曲年代】1935年 【初演】〈第1組曲〉1936年11月24日 モスクワ、ボリショイ劇場にて 〈第2組曲〉1937年4月15日 レニングラード、作曲者の指揮による 〈バレエ1幕短縮形式〉1938年12月 ブルノー国立歌劇場にて

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、テナー・サクソフォーン、ホルン4、コルネット、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール、シロフォン)、ハープ、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部

ひとつやなぎ・ふみこ(音楽学)／ロシア音楽研究の第一人者。国際音楽学会ショスタコーヴィチ研究班アジア代表委員。ロシアオペラ・声楽・ピアノズムに特に造詣が深い。ロシア音楽研究会主宰。ロシアン・ピアノ・スクールin東京総合監修。研究・執筆、声楽指導、音楽通訳・翻訳・字幕を手掛け、邦訳した大曲だけでも50を超える。

The 138th Tokyo Opera City Subscription Concert

Wed. May 12, 2021, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 952th Suntory Subscription Concert

Thu. May 13, 2021, 19:00 at Suntory Hall

The 953th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. May 16, 2021, 15:00 **Bunkamura** Orchard Hall

Andrea Battistoni, conductor

Ryota Komatsu & Satoshi Kitamura, bandoneón*

Masanobu Yoda, concertmaster

Piazzolla:

Sinfonia Buenos Aires Op. 15* [Japan Premiere] (ca. 30 min)

- I. Moderato – Allegretto
- II. Lento, con anima
- III. Presto marcato

12
May

13
May

16
May

Prokofiev:

Excerpts from “Romeo and Juliet” suites (ca. 50 min)

- Montagues and Capulets (Suite no. 2 - 1)
- Juliet as a Young Girl (Suite no. 2 - 2)
- Folk Dance (Suite no. 1 - 1)
- Masks (Suite no. 1 - 5)
- Balcony Scene (Suite no. 1 - 6)
- Death of Tybalt (Suite no. 1 - 7)
- Romeo and Juliet before Parting (Suite no. 2 - 5)
- Friar Laurence (Suite no. 2 - 3)
- Romeo at Juliet's Tomb (Suite no. 2 - 7)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (May 16)



- Entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter just before or in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.

Artists Profile

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star conductor with an international reputation as one of the most important of his generation. Appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genova in 2013 and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

He has been causing a sensation in Tokyo with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil for operas such as Nabucco, Rigoletto (Nikikai), and Aida (co-produced grand opera), and numerous symphonic works including the Roman Trilogy, Pictures at an Exhibition and Rite of Spring. His subsequent concert-style Turandot (2015), Iris (2016), and Mefistofele (2018) secured his reputation as a leading light to critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Stockholm Opera House, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munchen, Mariinsky Theatre and world renowned orchestras such as Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, & Israel Phil.

His future plans include Deutsche Oper Berlin, Bayerische Staatsoper, Dutch National Opera, & Australia Opera in Sydney. His book", Non è musica per vecchi," was published by Rizzoli published in 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.



©Takafumi Ueno

Ryota Komatsu & Satoshi Kitamura, bandoneón

Ryota Komatsu was born in Tokyo in 1973. He has given performances that were monumental for the tango world in Japan and around the world. His joint album "Tint," with Taeko Onuki, released in 2015, won the 57th Japan Record Awards for the Excellent Album. In March of this year, he published a 400-page book, "The Truth of Tango".

Satoshi Kitamura first encountered the bandoneon when he was a student at Kansai University. He studied under Ryota Komatsu and Julio Pane. He has performed at festivals all over the world and participated in various recordings.



©Yusuke Takamura

©Genki Tanemura

Program Notes

By Robert Markow

Piazzolla: *Sinfonía Buenos Aires*, Op. 15

Astor Piazzolla is a name well known to most connoisseurs of the guitar and especially to tango enthusiasts. More than any other figure, this Argentine composer has dominated the tango scene during the past few decades. The majority of his compositions are tangos (over three hundred), and many of them have become classics in their field, with *Adiós Nonino* – a lament for the composer’s father who died in 1959 – being his greatest hit.

This TPO concert reveals another side of Piazzolla’s creative genius. The work we hear is an early, three-movement symphonic work for full orchestra that includes a large percussion section and a pair of bandoneóns. (The bandoneón is a close relative of the accordion, with seventy-one buttons divided between both sides of the bellows, but no keyboard.) Much of what Piazzolla learned about orchestration came from Argentina’s most famous classical composer, Alberto Ginastera, who also lived in Buenos Aires. According to the published score, the first performance of the *Sinfonía* was given in Buenos Aires by the Orquesta Sinfónica de Radio del Estado, conducted by Fabien Sevitzky, on August 16, 1953.

The *Sinfonía* opens with brash, brazen pronouncements from the full orchestra. After this has run its course the music settles into a series of episodes that demonstrate a strong tango influence, even at this early stage of the composer’s career. The second movement is by contrast intimate, lyrical, and often impressionistic in the manner of Debussy. It features much solo writing, especially for woodwinds, harp, and celesta. A central, more animated episode unfolds over the tango rhythm and quickly grows to an impressive climax before subsiding and returning to the opening material. The influence of Ginastera is strongest in the immensely energetic final movement, where we find powerful rhythms, virtuosic writing for every section of the orchestra

12
May

13
May

16
May

ASTOR PIAZZOLLA: Born in Mar del Plata (near Buenos Aires), March 11, 1921; died in Buenos Aires, July 5, 1992

Work composed: 1951 **World premiere:** August 16, 1953, in Buenos Aires by the Orquesta Sinfónica de Radio del Estado, conducted by Fabien Sevitzky

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 2 trombones, bass trombone, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, tom-tom, tavolette, sandpaper, tam-tam, triangle, suspended cymbal, cymbals, glockenspiel, xylophone), harp, piano, celesta, strings, 2 bandoneóns

Prokofiev: Excerpts from “Romeo and Juliet” suites

No playwright’s works have been more heavily mined for musical purposes than Shakespeare’s, and none of the bard’s great tragedies has inspired more compositions than *Romeo and Juliet*. The subject – love – has a lot to do with it, of course, but love is treated in other Shakespeare plays as well. *Romeo* has in addition the heartbreak of the family feud, which acts as a kind of fate that hovers over the “star-crossed lovers,” something beyond their control yet something that orders their destiny. “Mon dieu,” exclaimed Berlioz, “what a subject! Everything in it seems designed for music.”

In *Romeo and Juliet*, Prokofiev created not only one of his very finest and most popular compositions, but what would quickly rise to become the most successful full-length ballet score of the twentieth century. The music contains a wealth of memorable themes, passionate lyricism, compelling rhythmic excitement, and a generous measure of comic elements (a quality not often associated with the story). For various reasons involving backstage politics, no staged performance was in sight, so Prokofiev expediently arranged two orchestral suites of seven numbers each (drawn from the total of fifty-two), as well as a set of ten numbers arranged for solo piano. (A third orchestral suite was compiled in 1946.) These suites enjoyed some currency before *Romeo and Juliet* was finally staged by the

Kirov in Moscow in January of 1940. But in the meantime, the honor of the premiere stage production had gone to Brno, Czechoslovakia (now in the Czech Republic), where it was given, without Prokofiev's participation, on December 30, 1938 at the opera house (today the Mahen Theater) to an enthusiastic reception.

None of Prokofiev's suites from *Romeo and Juliet* follows the original order of events, and conductors have felt free to compile their own suites. Conductor Andrea Battistoni has chosen nine excerpts from the first two suites and arranged them in a cogent sequence that approximates the original dramatic outline and progression of moods in the ballet:

Montagues and Capulets – Members of both feuding families strut about the ballroom. A contrasting waltz interlude depicts Juliet dancing with Paris, her betrothed. The return of the opening section is announced by a solo from an instrument rarely found in symphony orchestras, the saxophone.

Juliet as a Young Girl – All the mischievousness, skittishness and vivaciousness of the fourteen-year-old girl are admirably captured in this number.

Folk Dance – The townspeople are in a festive mood. The Folk Dance, which opens Act II, is set to the tarantella rhythm.

Masks – A swaggering march tune accompanies Romeo, Mercutio and Benvolio, all masked, as they arrive at the ball of the rival Capulets' house.

Balcony Scene – The Balcony Scene takes place near the end of Act I. It is night. Juliet, restless and unable to sleep, steps out onto her balcony while down below, Romeo is making his way through the garden to see Juliet, shortly after having met her for the first time at the ball earlier that evening. For what is perhaps the most famous love scene in all literature, Prokofiev poured forth some of his most passionately lyrical music, perfectly conveying the ecstasy of the two lovers.

Death of Tybalt – To magnificent brawl music, Romeo avenges the murder of his friend Mercutio by dueling with and killing Tybalt. Swashbuckling action is followed by a grim funeral march (in 3/4 meter!) to grinding dissonances. The orchestral writing is highly virtuosic, with violins in particular required to execute incredible feats of showmanship.

12
May13
May16
May

Romeo and Juliet before Parting – As dawn breaks, the two lovers bid adieu after their first – and only – night together as man and wife. For this *pas de deux*, Prokofiev wrote some of his most exquisite music, which rises to a passionate climax before subsiding in gentle tones and subtle hues.

Friar Laurence – Juliet visits the kindly, understanding friar, who provides her with a potion that will simulate death for a few hours.

Romeo at Juliet's Tomb – In the ballet's final scene, Romeo comes to Juliet's funeral bier. Believing her dead, in despair he takes poison to music of searing, poignant intensity.

SERGEI PROKOFIEV: Born in Sontsovka (today Krasnoye), department of Ekaterinoslav, Ukraine, April 27, 1891; died in Moscow, March 5, 1953

Work composed: 1935-36 **World premiere:** [Suite No. 1] November 25, 1936 at the Bolshoi Theatre in Moscow [Suite No. 2] April 15, 1937 in Leningrad conducted by the composer [Ballet] December 30, 1938 at The National Theatre Brno

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, tenor saxophone, 4 horns, cornet, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, glockenspiel, xylophone), harp, piano, celesta, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, Robert Markow now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2021 Season Subscription Concerts Lineup

Join us for the ultimate concert experience of our concert series below.
For details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en>

June

Thu. Jun 17, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Jun 18, 19:00 at Suntory Hall

Sun. Jun 20, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Tadaaki Otaka
piano: Ayako Uehara

Single tickets available

— Music for Forever —

Rachmaninov:

Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43
Symphony No. 2 in E minor, Op. 27



12
May

13
May

16
May

July

Thu. Jul 1, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Jul 2, 19:00 at Suntory Hall

Sun. Jul 4, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

Single tickets available

— All Brahms' Symphonies —

Brahms:

Symphony No. 1 in C minor, Op. 68
Symphony No. 2 in D major, Op. 73



September

Thu. Sep 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Sep 17, 19:00 at Suntory Hall

Sun. Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

— All Brahms' Symphonies —

Brahms:

Symphony No. 3 in F major, Op. 90

Symphony No. 4 in E minor, Op. 98



Single tickets available

November

Mon. Nov 1, 19:00 at Suntory Hall

Wed/Holiday Nov 3, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu. Nov 4, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

conductor: Andrea Battistoni
flute: Tommaso Benciolini

— Japan Premier of Battistoni's Flute Concerto —

Battistoni:

Flute Concerto "*The Garden of Delights*"
(Japan Premiere)

Tchaikovsky :

Symphony No. 5 in E minor, Op. 64



Single tickets available

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)

東京フィルだより

6月の定期演奏会



第139回東京オペラシティ定期シリーズ

6月17日(木)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第954回サントリー定期シリーズ

6月18日(金)19:00

サントリーホール

第955回オーチャード定期演奏会

6月20日(日)15:00

Bunkamuraオーチャードホール

指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)

ピアノ：上原彩子*

ー 復活を遂げた作曲家 ー

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*

ラフマニノフ／交響曲第2番

7月の定期演奏会



第140回東京オペラシティ定期シリーズ

7月1日(木)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第956回サントリー定期シリーズ

7月2日(金)19:00

サントリーホール

第957回オーチャード定期演奏会

7月4日(日)15:00

Bunkamuraオーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ー ブ람ス 交響曲の全て ー

ブ람ス／交響曲第1番

ブ람ス／交響曲第2番

【料金】SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (平日10時～18時／土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

名匠・尾高忠明と贈る
「復活を遂げた作曲家」
ラフマニノフの濃厚なロシアン・ロマン

文＝飯尾洋一



桂冠指揮者・尾高忠明とのロシアン・ロマン

6月定期は東京フィル桂冠指揮者の尾高忠明が登場する。ピアニスト上原彩子を招き、ラフマニノフ・プログラムが組まれた。曲は「パガニーニの主題による狂詩曲」と交響曲第2番。ラフマニノフならではの濃厚なロマンをたっぷりと味わえることだろう。

公演に添えられたキャッチコピーは「復活を遂げた作曲家」。ロシア出身の作曲家ラフマニノフには有名な逸話がある。若くして将来を嘱望されたラフマニノフだが、22歳で書きあげた交響曲第1番が大失敗に終わってしまったのだ。交響曲第1番の初演の際、ロシア五人組のひとりであるキュイは「地獄の住民を喜ばせる交響曲」と作品を酷評した。この挫折により、ラフマニノフの創作活動は深刻な危機を迎え、約3年間にわたりほとんど作品を発表できなくなってしまう。しかし、音楽に造詣の深い精神科医ニコライ・ダーリの助けを借りてラフマニノフは自信と創作意欲を取り戻し、ピアノ協奏曲第2番の成功によって華麗なる復活を果たした。新型コロナウイルスの感染拡大が続く昨今、なにより待たれるのは音楽界の復活。「復活を遂げた作曲家」というキャッチコピーにはラフマニノフの復活のストーリーにコロナ禍の克服を重ねようという意図もうかがえる。

華麗なピアノ独奏とオーケストラが紡ぐ雄大なドラマ

「パガニーニの主題による狂詩曲」は、ラフマニノフが祖国ロシアを離れ、新天地アメリカに渡って書いた傑作。アメリカではピアニストとして名声を築いたラフマニノフだけに、華麗なピアノ独奏が聴きものとなる。とりわけ第18変奏は甘美なメロディで広く親しまれており、フィギュアスケートなどでもしばしば利用される。2022年のデビュー20周年に向けてリサイタルシリーズも展開する上原彩子が、作品の魅力を存分に伝えてくれることだろう。



交響曲第1番が辛辣な酷評にさらされたのとは対照的に、続く交響曲第2番は初演時より大成功を収め、ラフマニノフの管弦楽曲の代表作として広く人気を獲得している。全4楽章で約60分程度を要する大作であるが、その大きさこそが作品の魅力のひとつといってもいいだろう。むせかえるような濃密なロシア的詩情とメランコリーが雄大なドラマを紡ぎ出す。憧憬に満ちた第3楽章のアダージョは、ほとんど神々しいと言ってもよいほど。第4楽章のフィナーレはこの上もない高揚感にあふれている。

そして、このラフマニノフの交響曲第2番はマエストロ尾高がさまざまなオーケストラで取り上げてきた得意のレパートリーでもある。国内のオーケストラはもちろんのこと、メルボルン交響楽団とBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団とは録音も残している。長年の信頼関係を築く東フィルとの共演となれば、いっそう期待が高まろうというもの。オーケストラに新たな名演の歴史が刻まれるのではないだろうか。

6月定期演奏会 公演情報

6月17日(木) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

6月18日(金) 19:00 サントリーホール

6月20日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)

ピアノ：上原彩子*

— 復活を遂げた作曲家 —

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*

ラフマニノフ／交響曲第2番

チケット等詳細は17ページをご覧ください。



2021シーズン 今後の定期演奏会

2021年1月に開幕した東京フィルの2021シーズンのテーマは「**新しい景色をみたい**」。東京フィルが誇るマエストロたちと織りなす空前絶後の1年間。皆様の目に新しい景色をお届けして参ります。

**6
月**

指揮：尾高忠明
(東京フィル桂冠指揮者)
ピアノ：上原彩子*

6月17日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

6月18日(金) 19:00
サントリーホール

6月20日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

1回券発売中

ー 復活を遂げた作曲家 ー

ラフマニノフ／
パガニーニの主題による 狂詩曲 Op. 43 *
交響曲第2番 ホ短調 Op. 27



**7
月**

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)

7月1日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

7月2日(金) 19:00
サントリーホール

7月4日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

1回券発売中

ー ブ람ス 交響曲の全て ー
ブラームス／

交響曲第1番 八短調 Op. 68
交響曲第2番 二長調 Op. 73



9月

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)

9月16日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

9月17日(金) 19:00
サントリーホール

9月19日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

1回券発売中

ー ブ람ス 交響曲の全て ー
ブ람ス／

交響曲第3番 ヘ長調 Op. 90
交響曲第4番 ホ短調 Op. 98



11月

指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)
フルート：トンマーゾ・ベンチョリーニ*

11月1日(月) 19:00
サントリーホール

11月3日(水・祝) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

11月4日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

1回券発売中

ー バッティストーニの作品 ー
バッティストーニ／

フルート協奏曲『快楽の園』*～ボスの絵画
作品によせて(2019)(日本初演)

チャイコフスキー／
交響曲第5番 ホ短調 Op. 64



東京フィルだより

問合せ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちらから

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝日休／
発売日の土日祝は10時～16時)
URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



2021シーズン 午後のコンサート。いよいよスタート!



イラスト：ハラダチエ

2021シーズンの「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」3シリーズ、「渋谷」を皮切りにいよいよスタートいたしました。「休日」シリーズの4回セット券は発売中、1回券は各シリーズとも6月公演まで発売中です(残席状況はそれぞれウェブサイトなどでご確認ください)。

2021シーズンも、名曲と楽しいお話で充実の午後のひとときをお届けします。

午後のコンサート(各シリーズ共通)				
4回セット券	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥15,500	¥10,500	¥7,500
東京フィルフレンズ	¥18,468	売切	売切	売切
1回券	S席	A席	B席	C席
定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
東京フィルフレンズ	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※セット券は現在、「休日」シリーズのみ販売中です。

“大人の渋谷” Bunkamuraで楽しむ 渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール

6月9日(水) 第10回

指揮とお話: 尾高忠明

1回券
発売中

名曲には名シーン

フェイン／映画『慕情』より「慕情」
ワーグナー／楽劇『ワルキューレ』より
「ワルキューレの騎行」
スタイナー／映画『風と共に去りぬ』より
「タラのテーマ」
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) ほか

9月7日(火) 第11回

指揮とお話: 小林研一郎

1回券6月発売

コパケンのチャイコフスキークライマックス!!

チャイコフスキー／
歌劇『エフゲニー・オネーギン』よりポロネーズ
弦楽セレナードより第1楽章
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

ほか

11月2日(火) 第12回

指揮とお話:
アンドレア・バッティストーニ

1回券8月発売

バッティストーニの運命

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチェーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ボンキエリ／歌劇『ラ・ジョコンダ』より「時の踊り」
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

photo: 尾高忠明©Takafumi Ueno 小林研一郎©山本倫子 アンドレア・バッティストーニ©Takafumi Ueno

お申し込み・お問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝休) URL www.tpo.or.jp/

ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美” **平日の午後のコンサート** 東京オペラシティ コンサートホール

7月27日(火) 第22回

指揮とお話:尾高忠明

**テンポはマーチ**

1回券6月発売

古関裕而／スポーツショー行進曲
J.F. ワグナー／行進曲「双頭の鷲の旗の下に」
スーザ／行進曲「星条旗よ永遠なれ」
レスピーギ／交響詩『ローマの松』より
「アッピア街道の松」

ほか

10月21日(木) 第23回

指揮とお話:円光寺雅彦
ピアノ:清塚信也***忘れ難きふるさと**

1回券6月発売

グリーグ／
劇付随音楽『ペール・ギュント』より
「朝～山の魔王の宮殿にて」
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

2022年2月3日(木) 第24回

指揮とお話:三ツ橋敬子
ピアノ:仲道郁代***夢を語りますか**

1回券8月発売

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ポロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』

photo: 尾高忠明©Martin Richardson 円光寺雅彦©K. Miura 三ツ橋敬子©大杉幸平 仲道郁代©Kiyotaka Saito(SCOPE)

元祖!22年目を迎える“ご長寿”シリーズ **休日の午後のコンサート** 東京オペラシティ コンサートホール

6月6日(日) 第88回

指揮とお話:尾高忠明

1回券
発売中**名曲には名シーン**

フェイン／映画『慕情』より「慕情」
ワグナー／楽劇『ワルキューレ』より
「ワルキューレの騎行」
スタイナー／映画『風と共に去りぬ』より
「タラのテーマ」
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) ほか

9月5日(日) 第89回

指揮とお話:小林研一郎



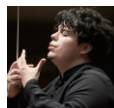
1回券6月発売

コバケンのチャイコフスキークライマックス!!

チャイコフスキー／弦楽セレナードより第1楽章
バレエ組曲『くるみ割り人形』より
「行進曲～トレバック～花のワルツ」
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

ほか

11月7日(日) 第90回

指揮とお話:
アンドレア・パッティストーニ**パッティストーニの運命**

1回券8月発売

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチェーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ボンキエッリ／歌劇『ラ・ジョコンダ』より「時の踊り」
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

2022年2月6日(日) 第91回

指揮とお話:三ツ橋敬子
ピアノ:仲道郁代***テーマは愛**

1回券8月発売

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ポロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／バレエ組曲『白鳥の湖』より

photo: 尾高忠明©Martin Richardson 小林研一郎©山本倫子 アンドレア・パッティストーニ©Takafumi Ueno 三ツ橋敬子©大杉幸平 仲道郁代©Kiyotaka Saito(SCOPE)

Photo Reports 2021年1～3月の演奏会より

2021年最初の演奏会、「ニューイヤーコンサート2021」には、日替わりで二人の若き音楽家が登場、華やかに新年の幕開けを飾りました。2021シーズン開幕を飾る1月定期演奏会は首席指揮者アンドレア・パッティストニが登壇。定期演奏会2公演、地方公演を含む5つの演奏会でタクトをとりました。

写真=三浦興一／2 FaithCompany

ニューイヤーコンサート2021(1/2、3)

指揮：三ツ橋敬子

ヴァイオリン：吉村妃鞠*(1/2)

フルート：Cocomi**(1/3)

司会：朝岡聡

コンサートマスター：依田真宣

パガニーニ／

ヴァイオリン協奏曲第1番第1楽章より*

シャミナード／

フルートとオーケストラのためのコンチェ

ルティエノ Op. 107**

【お楽しみ福袋プログラム】

ラヴェル／ボレロ ほか



恒例の獅子舞がお客様をお迎え



イラスト=沙良志乃



1月2日公演にはヴァイオリニストの吉村妃鞠さんが登場。三ツ橋敬子マエストロは袴姿で



3日の公演にはフルート奏者のCocomiさんが登場。注目を集めました

第87回 休日の午後のコンサート 〈夢のつづき〉(1/11)

指揮とお話：三ツ橋敬子

コンサートマスター：三浦章宏

外山雄三／『管弦楽のためのラプソディー』より「八木節」

J.シュトラウスⅡ／トリッチ・トラッチ・ポルカ

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より「モルダウ」

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

第2楽章、第4楽章

1月定期演奏会(1/22、24)

指揮：アンドレア・パッティストーニ
 (東京フィル 首席指揮者)
 コンサートマスター：近藤薫

— 永遠の時を生きる —

ラヴェル／『ダフニスとクロエ』

第1組曲・第2組曲

ストラヴィンスキー／

バレエ組曲『火の鳥』

(1919年版)



じつに一年ぶりの来日となったマエストロ・パッティストーニ。オーケストラメンバーからも歓迎の笑顔があふれました



“管弦楽の魔術師”の異名をとるラヴェルの『ダフニスとクロエ』ほか、充実の演目でお届けしました

第53回 千葉市定期演奏会(2/7)

指揮：渡邊一正
 チェロ：佐藤晴真*
 コンサートマスター：依田真宣
 ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』、
 チェロ協奏曲*、交響曲第9番『新世界より』

響きの森クラシック・シリーズVol. 75(3/27)

指揮：小林研一郎
 チェロ：川久保賜紀*
 コンサートマスター：依田真宣
 ベートーヴェン／
 ヴァイオリン協奏曲*、交響曲第7番

第17回子どもたちと芸術家の出あう街 キラキラ☆にじいろコンサート(3/28)

指揮：渡邊一正 ピアノ：亀井聖矢
 司会：塚本江里子
 コンサートマスター：依田真宣



2歳のお子様から親子でお楽しみいただいたコンサート。俊英・亀井聖矢さんはガーシュウィン「ラブソディ・イン・ブルー」で会場を沸かせました

学校等での演奏について

東京フィルでは、令和2年度も広範地域で、子どもたちにオーケストラ演奏による本物の芸術体験を届ける公演を多数予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部地域では公演の中止を余儀なくされることとなりました。これを受けて、文化庁の施策や各自治体、訪問校の協力のもと、安全対策を講じた上で公演を行い、児童・生徒・教員の皆様に音楽をお届けしています。

◇文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」

一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等などにおいて公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行い、実演では、子供たちにも参加してもらいます。



ボディパーカッションや合唱(手話)などで子供たちも演奏に参加します

訪問校一覧(道府県別・訪問順)

B区分	北海道	小樽市立望洋台中学校
	北海道	釧路市立中央小学校
C区分	福島県	喜多方市立熊倉小学校、福島市立立子山小学校、二本松市立原瀬小学校
	宮城県	仙台市立根白石小学校
	新潟県	村上市立保内小学校
	栃木県	日光市立今市小学校、日光市立栗山小中学校
	京都府	京丹後市立島津小学校、相楽東部広域連立南山城小学校

◇文化庁「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止せざるを得なかった文化芸術鑑賞・体験教室等について、文化庁が支援することにより、子供たちが質の高い文化芸術に触れる機会を創出し、冷えた文化芸術への関心を取り戻すことを目的とします。

訪問校一覧(道府県別・訪問順)

大編成

北海道	北斗市立大野中学校、札幌市立手稲鉄北小学校
千葉県	市川市立鬼高小学校、山武市立山武西小学校
埼玉県	さいたま市立指扇北小学校
神奈川県	湯河原町立吉浜小学校
山梨県	甲州市立塩山中学校、笛吹市立一宮南小学校、山梨県立盲学校、山梨県立高等支援学校桃花台学園

小編成

群馬県	前橋市立中川小学校
東京都	世田谷区立中里小学校
京都府	京都市立安朱小学校

◇世田谷区立小学校での訪問コンサート

世田谷区では区立全小学校の5年生を対象に例年オーケストラ公演を開催しておりましたが、令和2年度は東京フィルメンバーによる弦楽五重奏が各校を訪問し、演奏を届けました。



世田谷区立八幡山小学校での公演より
©Takashi Fujimoto

News & Information

ご寄附の御礼



東京海上ホールディングス

上記企業様より、新型コロナウイルス感染症対策として、公益社団法人日本オーケストラ連盟を通じ、ご寄附をいただきました。ご支援に心より御礼申し上げます。
(敬称略)

東京フィルは3月、国立大学法人 東京大学先端科学技術研究センターと連携協定を締結いたしました。

東京フィルは3月1日、国立大学法人 東京大学先端科学技術研究センターと学術の振興、産業の発展及び活力ある豊かな社会づくりに資することを目的として、連携協定を締結いたしました。それぞれの機関の有する知識、経験及び能力を活かし、研究交流、産学官連携、人材育成等を推進してまいります。

連携協定に際し、東京フィル専務理事の石丸恭一が同センター社会連携研究部門（先端アートデザイン分野）アドバイザーに、コンサートマスターの近藤薫が同部門特任教授として着任いたしました。



左：東京フィル 専務理事 石丸恭一、右：東京大学先端科学技術研究センター所長 神崎亮平氏 ©星ひかる

連携協定に関するプレスリリース詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/news/release/20210301.html>



ご挨拶 2020年12月をもってホルン奏者 古野淳が
定年退団いたしました。

東京フィルメンバーとして最後の出演は「NHK紅白歌合戦」でした。

「同僚とたくさんのお客様に支えられ、38年もの長きにわたり幸せなオーケストラ生活を送ることが出来ました。東京フィルに居なければ決して出会うことの無い偉大なマエストロ、素晴らしいソリストとの共演をはじめ、新国立劇場での数々の優れたオペラ、バレエの初演を経験してこられたことは、自分の人生においても大きな財産となりました。2014年のワールドツアーは東京フィルが世界的にも認められた成果として忘れられません。任期満了にて東京フィルは卒業しましたが、これからもホルンと音楽に精進してまいります。そして私自身が東京フィル・ファンであり続けることを確信しております」。長きにわたり、お疲れ様でした。今後のご活躍を祈念しております。



ご挨拶 2021年1月をもって打楽器奏者 高野和彦が
定年退団いたしました。

東京フィルメンバーとして最後の出演は藤原歌劇団公演『ラ・ボエーム』でした。

「このコロナ禍でご挨拶が遅くなりましたが、今年の1月末をもちまして退団致しました。私が東京フィルに入団したのは1983年でした。その翌年、東京フィル初のヨーロッパ演奏旅行があり、その期間は4月下旬から6月上旬までの何と50日間という長丁場でしたが、貴重な体験の数々が懐かしく思い出されます。それから37年、素晴らしい音楽家や楽曲と出会い、そして素晴らしい仲間達との演奏は私にとってかけがえのない財産です。今はまだ厳しい状況ではありますが、これからも末長く東京フィルを応援していただく事を願いつつご挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました」。長きにわたり、お疲れ様でした。今後のご活躍を祈念しております。



©三好英輔

ご挨拶 2021年2月をもってホルン奏者 今井彰が 定年退団いたしました。

東京フィルメンバーとして最後の出演は、2月28日「フレッシュ名曲コンサート 福生市民会館×東京フィル『福が生まれる春の奏』」でした。



©三好英輔

「23歳のときに受けたオーディション以来40年間東京フィル一筋でホルンを演奏してまいりました。最初の欧州旅行のときに、本番当日にいきなり代理で1番ホルンを吹くことになり、それ以来ながく1番奏者として演奏してまいりました。音楽家の性として全ての演奏に全力をつくすのですが、音楽のためには安直に逃げずにあぶない橋も渡る…をモットーにやってきました。自分として印象に残っている演奏は、ノイマン指揮の『田園』、バルシャイ指揮のチャイコフスキー「5番」、コヴァーチュ指揮の『火の鳥』、大野和士・ゲリングスのショスタコーヴィチ「チェロ協奏曲」……などたくさんあります。長い間音楽できて幸せでした。ありがとうございました」。長きにわたり、お疲れ様でした。今後のご活躍を祈念しております。

訃報 2021年2月8日、オーボエ奏者の三谷真紀さんが逝去されました。



©三好英輔

オーボエ奏者の三谷真紀さんが、去る2021年2月8日に生涯の幕を閉じました。

彼女とは学生時代からの友人でもあり、同じオーケストラの一員として、長い時間を共に歩んできました。

6年前に癌が見つかり闘病生活が始まりましたが、体力の限界までオーボエ奏者としての道を歩み、彼女が愛したオーボエ・ダモーレの演奏を収録してからその生涯を閉じました。

三谷さんは高知県出身で、土佐弁の「はちきん」という言葉が頭に浮かびます。忍耐強く献身的、負けん気も強い土佐の女性の気質を表現した言葉です。

闘病の大変さを周りに見せず、ご家族への愛情も豊かに最後までオーボエ奏者として生き抜いた彼女は「はちきんさん」だったのかなと、店頭に並ぶ鮮やかな黄色い文旦を見ながら思いを馳せています。

ドヴォルザーク『新世界より』のコールアングレの映像などを見ると、彼女が今ここにいないのが不思議な感じです。

もう同じステージであの暖かい演奏を聞くことができないことが残念です。

三谷さんのご冥福をお祈りいたしますと共に、私達とコンサートでの時間を共有してくださったお客様に心より感謝申し上げます。
(ファゴット 桔川由美)

演奏会場の感染対策について

演奏会の再開にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場をお願いしております

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、国の機関、保健所等と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者にご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)の記載をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation



Reduced Visitor
Capacity

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っています。

客席内は十分な換気を行っています。

時差入退場にご協力ください。

特別連載

「音楽とともに生きる」

世界が未知の病に震撼した2020年。「音楽は不要不急」の言葉が飛び交う中でも、音楽が人の心を癒やし、分断をつなげ、深く精神を成長させ鼓舞してくれることを知り演奏を届けることに生涯を捧げる音楽家たち。本コーナーでは、音楽に一生を捧げ、さまざまな困難を抱えながらも立ち向かい生きる演奏家たちの姿をお届けしていきます。

Episode
1ヴァイオリン奏者
山内祐子さん談：山内研自
(東京フィル ホルン奏者)

2020年10月8日、東京フィルで35年にわたりヴァイオリン奏者をつとめた山内祐子さんが、がんとの闘病の末に逝去されました。夫であり東京フィル入団以来同僚として共に演奏活動を続けてきたホルン奏者の山内研自の談話と共に故人を偲びつつ、演奏家としてのキャリア、そしていのちと向き合ったヴァイオリニストの軌跡を見つめます。

後編 演奏活動とジュニアオーケストラ

私たちは東京藝術大学の同級生として出会いました。当時は「ソリストになることが成功者」といった価値観が中心だった藝大の弦楽器の中にあって、私たちの学年はオーケストラが好きな人が多かったです。妻もその一人でした。そして私と妻はほぼ同じ時期にあったオーディションで合格し、東京フィルに入りました。

妻は東京フィルでは第一ヴァイオリン奏者として活動を始めました。入団した頃はコンサートマスターを除いてはまだ首席などの制度はありませんでしたが、その後、いわば“初代”第一ヴァイオリンのフォアシュピーラー(※)になりました。そしてオーケストラ人生の半分近くまできた頃に、第二ヴァイオリンのフォアシュピーラーに移りました。当時、優秀な若手フォアシュピーラーが第一ヴァイオリンに入団し、第二ヴァイオリンのフォアシュピーラーが定年退職されるというタイミングでした。

※フォアシュピーラー：主に、コンサートマスターや弦楽器の首席奏者の隣で弾き、トップ奏者の補佐をする役割。次席奏者とも。



東京フィル2008年機関紙「公私ともに名パートナー!?!」より

その時その時で 自分の役割を少し変えて、 全体のバランスを考えて 組織のためになる ことをやっていく

ヴァイオリンセクションでも、第一と第二では音楽に対するアプローチが違って別な面白さがある。妻はそのことを小さい頃からオーケストラに関わって知っていて、第一ヴァイオリンの経験をきちんと積んだ後で今度は第二ヴァイオリンを経験させてもらいたいという気持ちだったと思います。それと同時に、オーケストラという集団の中の演奏家として、その時その時で自分の役割を少し変え、全体のバランスを考えて組織のためになることをやっていくことも考えたのでしょう。とても意義のある考え方で、そのことを口には出さないまでも身を以て示した妻を私は立派だったと思っています。

東京フィルでは演奏活動と同時に『ファミリーオーケストラ』にも積極的に取り組んでいました。夏休みの本番に向けて子供だけでなく家族の参加者を募って、みんなで練習して取り組むという催しで、例えばマエストロ チョン・ミョンフンらの指揮で本番がやれるということで、参加者もモチベーション高く参加してくれていました。

妻は北九州の出身で、地元のアマチュアオーケストラに子供の頃から所属していた経験があり、子供たちにオーケストラの楽しさを知ってもらいたい、オーケストラで演奏するのは大変なこともあるけど、本当にみんなと楽しく音楽ができるんだよ、ということを伝えたかったのではないかと思います。東京フィルのファミリーオーケストラでもヴァイオリンの中心的な立場で関わっていました。また地元の相模原で組織されたジュニアオーケストラにも熱心に取り組んでいました。これら子供たちのオーケストラへの関わりは、妻が最も大切にしている音楽活動でした。

振り返ると、さほど幅広い交流ではないものの、彼女の人との関わり方は一つ一つの繋がりが『濃い』ものだったように感じます。亡くなった後に子供から大人まで何人もの生徒さんからお手紙やメールをいただいています。『とにかくできないことはとことんまで見ていただいた』と皆さま口を揃えておっしゃいます。関わる方々との繋がりを徹底的に大切にするという妻のポリシーを感じます。

2つのパート譜を立体的にイメージ。

オーケストラ人生の前半をファーストで、後半をセカンドで、と思っていたとおり、去年の4月からセカンドのフォアシュビラーを務めています。ファーストを体験している中で、セカンドの楽譜を見ても、「このメロディはファーストのあとから来ているな」というように立体的にわかり、オーケストラとの一体感が強くなり、1つの星しが見えなかったのが銀河系全体が見えるようになったぐらい、音楽感が広がりました。譜の中にはいつも、ファーストでもセカンドでもない自分だけのメロディー譜をもイメージしていて、それはセカンドのフォアシュビラーとしても役立っています。

山内 祐子さん
第2ヴァイオリン



東京フィル2008年機関紙「フォアシュビラーの仕事、教えます」より

子どもたちにオーケストラの楽しさを 知ってもらいたかった

2007年ファミリーオー
ケストラでの練習より



Epilogue

闘病、家族との時間

今の時代、医療の進化も目覚ましいので、乳がんもたくさんの治療法が存在しますから、お医者様と相談して、例えば『手に痺れが起きやすい』といったリスクのある治療は可能な限り避けるなど、様々な治療をしてきました。妻は最後まで「ヴァイオリンの演奏ができなくならないよう」、気にしながら病と闘っていました。しかし昨年春以降の病状の進行は私から見ても急だなと感じていました。

会社員の息子は出勤が続いていましたが、コロナ禍で私は仕事が少なく、大学生だった娘もオンライン授業になるなどで家にいることが多く、亡くなる直前に家族がそばに居られる時間が多かったのはせめてもの幸いでした。

二人の子供の育児、今思うとよくやってきたなあと思います。この仕事は夜遅いのが子育てのネックになります。保育園だけでなく、自治体の家庭福祉保育、双方の親、ベビーシッターさん含め、多くの方の助けを借りてなんとかやってきました。おかげさまで家族4人でファミリーオーケストラに参加するなど楽しい時間も過ごせました。お世話になった方々には心から感謝しています。

東京フィルのお客様の中にもご病気と闘っている方、ご家族が治療を頑張っているのを支えておられる方などもいらっしゃるかもしれません。その方々に東京フィルの音楽が少しでも癒しとなって届くよう、妻も天国から見守りながら願っているのではないかと思います。

本記事の前編は2021年1月の定期演奏会プログラムに掲載しております。ご希望の方は主催者まで声かけください。東京フィルウェブサイト「WEBで楽しむプログラム」からもご覧いただけます。

風と共に遺産が舞い込んだオーケストラ

——クラシック音楽とメディアの逸話

青山学院大学名誉教授
佐久間章行

東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。今回は、長年クラシック音楽に親しみ、パートナー会員として東京フィルをご支援くださっている青山学院大学名誉教授の佐久間章行様に登場いただきます。クラシック音楽の熱心な愛好家として、また芸術文化活動を支える支援者として音楽シーンを見つめてきた佐久間様。米国アトランタ赴任中に体験した、とあるエピソードを語ってくださいました。

1971年に米国ジョージア州アトランタ市にあるジョージア工科大学に客員助教授として赴任していた時のことである。

ある朝アトランタ・ジャーナル紙の朝刊を見て驚いた。なんと1面トップの大見出しに「アトランタ・シンフォニーの指揮者

ロバート・ショウが辞意を表明」と載っている。アトランタ・ジャーナル紙は「風と共に去りぬ」の著者マーガレット・ミッチェル女史も勤めていた代表的な地方紙であり、通常の1面トップは、政治・経済・社会システム関連のニュースと決まっていた。

ロバート・ショウ (Robert Shaw) は、1948年にロバート・ショウ合唱団を設立して全米屈指の合唱団に育てた指揮者であり、1967年にアトランタ・シンフォニーの音楽監督に就任すると併設の合唱団を組織するなど活発に活動していた。



ご自宅のオーディオルームは音響設計をヤマハ(株)に依頼したという本格的なものの。「クリムトの絵画『音楽Ⅱ』を眺めつつ、B&W社の800Diamondの音を聴いています」と佐久間様

米国赴任中の思い出のお写真は全米50州を走破した愛車ギャラクシーとともに。
「クラシック音楽専門のラジオ局が遠くなり電波が途絶えると、次の都市のクラシック専門局の電波が待ち遠しくなりました」



次の日もアトランタ・ジャーナル紙は1面トップに「名指揮者ロバート・ショウをアトランタに引き留めよう」と載せた、その後も毎日のようにロバート・ショウ関連の記事が1面を飾った。

ロバート・ショウが辞意を抱いた最大の原因は、理事会との対立にあった。理事会はオーケストラの財務内容重視であり、支援者数の増加を最重点事項として設定し、演奏会のプログラムも有名な馴染みのある名曲ばかりを要求していた。一方、指揮者とオーケストラのメンバーは、さらに多様な選曲を望んだのである。

アトランタ・ジャーナル紙のこのような騒ぎは一ヶ月ほど続いた。すると、さる大富豪の未亡人が「ロバート・ショウの引き留めに役立つなら」と巨額な夫の遺産をポンと寄付したのである。問題は急転直下に解決した。ロバート・ショウは1988年までアトランタ・シンフォニーに留まり、シンフォニーを立派に育て上げた。さらに黒人霊歌の合唱曲の分野にも大きく貢献した。

この話を音楽三田会（※音楽関係に従事する慶應義塾出身または関係者による親睦会）の月例会で、ダークダックスのメンバーの一人である喜^き早^{そう}哲^{てつ}さんにワイングラスを片手に披露したところ「そりゃあーそうですよ、ヨーロッパでは古（いにしえ）より、そのようになっていますよ」と当然のように捉えていた。



佐久間章行（さくま・あきゆき）

1935年東京生まれ、1960年慶應義塾大学院修了、同年管理工学科・助手。工学博士。1965年青山学院大学経営工学科講師～名誉教授。1971年ジョージア工科大学IE学科・客員助教授。日本経営工学会長。「人類存続主義」の提唱者、「AI次世代文明」の研究者、著書：「人類の滅亡と文明の崩壊の回避」「高度技術社会のパースペクティブ」（丸善プラネット）

薫風さわやかな季節を迎え、

皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

今月は、マエストロと楽団員が奏でる、色調豊かな緑があふれる

この季節にふさわしい、生命力みなぎる演奏をお楽しみください。

引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史



賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。

ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、

改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI	代表取締役社長 井手 博	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	桜美林大学	総長 大越 孝
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長 松下 和雄
(株)インターテクト	代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団	代表理事 宮内 義彦

花王(株)	代表取締役 社長執行役員	長谷部 佳宏	トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏	トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
キャノン(株)	代表取締役会長兼社長 CEO	御手洗 富士夫	DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋	(株)ニチケアパレス	代表取締役社長	秋山 幸男
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩	(株)ニフコ	代表取締役社長	柴尾 雅春
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史	日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之	(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛	富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准	(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳	(株)三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己	三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎	三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉	(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
ソニーグループ(株)	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎	ミライババイオサイエンス(株)	代表取締役	田中 めぐみ
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男	(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
(株)ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮	森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎	ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
都築学園グループ	総長	都築 仁子	(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫	ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之	楽天グループ(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣	(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス	代表取締役社長	畠森 達朗	(株)トレミール	代表取締役	茶谷 幸司
欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄	(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美	富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹	本田技研工業(株)	代表取締役社長	三部 敏宏
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎	三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽	三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹	三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年2月下旬より数ヶ月にわたり東京フィルが出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、チケット払戻し辞退や、コロナ禍における活動に対してのご寄附等、温かいご支援をいただいておりますこと、重ねて心より御礼申し上げます。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を継続してまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援とご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（23ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入して、下記へご送付ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
 〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
 Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
 Tel 03-5353-9521 (土日祝日を除く10時～18時)

東京フィル 賛助会 会員募集中

2021年3月に東京フィルハーモニー交響楽団は創立110年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは一年の始まりである1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の新しい暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動が続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化するグローバル社会において心の豊かさを育み、文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部（担当：星野^{かのまた}鹿文）

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」／「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、



小学校体育館でのオーケストラ本公演

東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。(2020年度の報告は26ページをご参照ください)

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは次ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョンミョンブン(2019年7月東京オペラシティ定期) ©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、あらかじめ東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)にご連絡いただき、公演当日、開演の60分前以降に公演会場の招待受付にお越しください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」として活用させていただいてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運用を見合わせておりましたが、2021年1月定期よりご案内を再開いたしました。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522（10時～18時／土日祝休）

1月定期演奏会のチケットのご寄附をいただきました。

心より御礼申し上げます。

（五十音順・敬称略）

小林二郎、鈴木武史、簗智早苗、藤原清明、丸山紀子、三木美智子、山本悦子、和久井寿美子 他（匿名希望9名）

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バットィストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏の他、2020年にはドキュメンタリー番組『情熱大陸』に取り上げられたほか、『NHK紅白歌合戦』にも出演。また、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェーリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo		ティンパニー& パーカッション Timpani & Percussion	
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
	篠澤 恭助		鈴木 啓介
専務理事	田沼 千秋		瀬谷 博道
石丸 恭一	寺田 琢		日枝 久
	遠山 敦子		南 直哉
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	本田 詩子
池田 敏美	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	松澤 久美子
糸井 正博	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	湊 貞男
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	山屋 房子
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	吉田 啓義
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	米倉 浩喜
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	脇屋 俊介
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	
大兼久 輝宴	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	
大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	細川 克己	
岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細洞 寛	

〈発行日〉2021(令和3)年5月12日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

新しい景色をみたい

In Search of a New Scene